

# Echolle

[エコール]

Vol.61

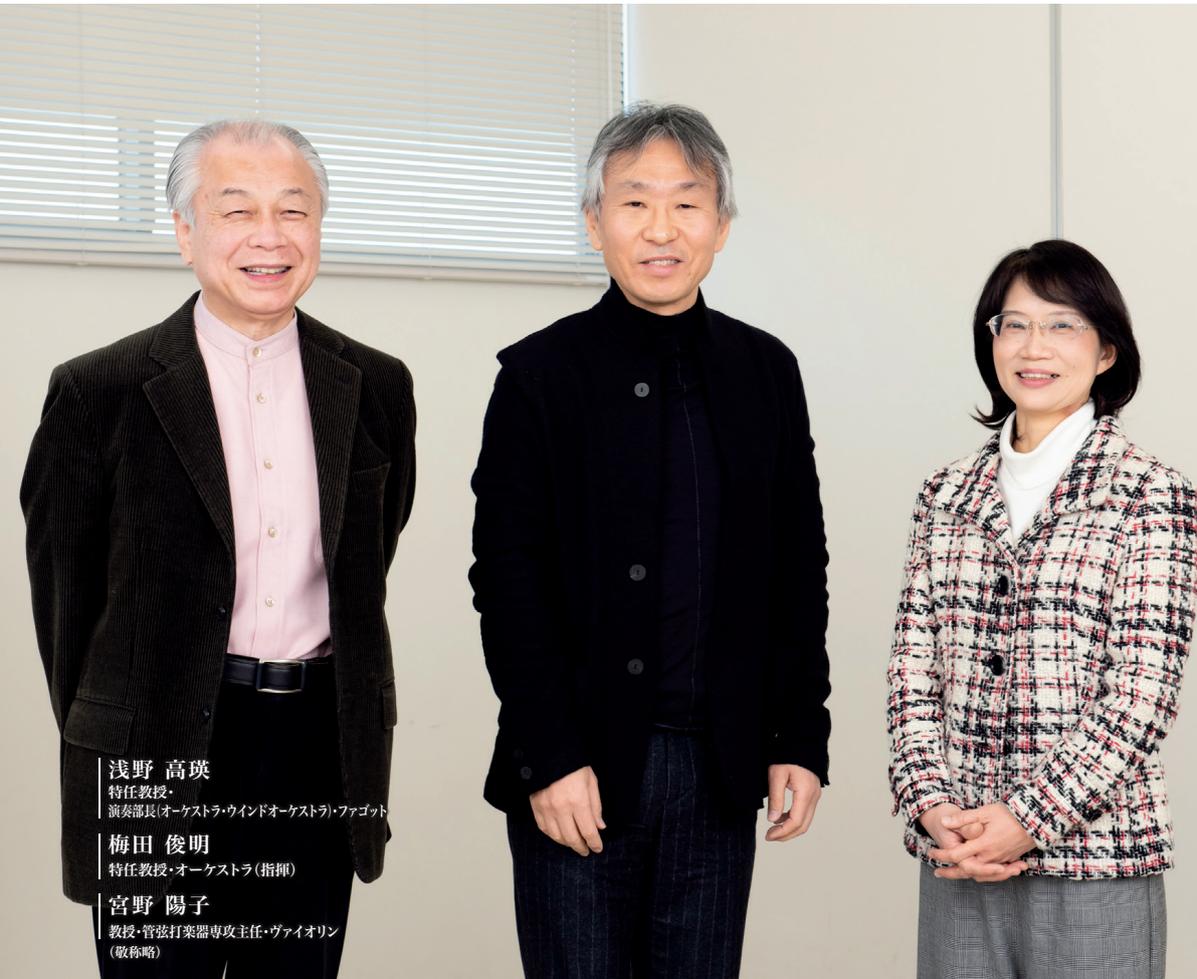
特別鼎談会  
演奏会・イベントレポート  
教員のよこがお  
音楽に関わる仕事で活躍する卒業生



第214回定期研究発表演奏会(オーケストラの部)  
文京シビックホール 大ホール



# それぞれイメージは違っていていい。 それがオーケストラの人数分あるから 音楽が面白くなる



浅野 高瑛  
特任教授・  
演奏部長(オーケストラ・ウインドオーケストラ・ファゴット)

梅田 俊明  
特任教授・オーケストラ(指揮)

宮野 陽子  
教授・管弦打楽器専攻主任・ヴァイオリン  
(敬称略)

2020年11月23日に文京シビックホールで開催された定期研究発表演奏会(オーケストラの部)は、新たに指揮者として梅田俊明先生を迎え、1年間の成果を余すところなく披露するものとなった。新型コロナウイルスによる様々な制限を乗り越えて実現した演奏は、まさに聴き手の琴線を揺さぶったのだ。ここに至るまで、オーケストラ授業はどのように行なわれ、梅田先生はどう新しい風を吹き込んだのか。そして、オーケストラの授業はどうあるべきか。演奏会から約1か月の後、梅田俊明先生と演奏部長の浅野高瑛先生、管弦打楽器専攻主任の宮野陽子先生に集まっていたが、鼎談会を行なった。

新型コロナウイルス対策をしながら、オーケストラの授業はどのように行なってきたのでしょうか。

浅野 実際には6月から対面での授業が始まったのですが、オーケストラに関しては、最初はマスクをして演奏できる弦楽器だけを始めました。管打楽器はしばらくの間、課題を与えての個人練習で

した。弦楽器だけと言っても、一部屋で人数が多くならないようまずはパートごとに、音楽ホールであるグランツァールの舞台やホワイエ、大教室で練習を行いました。

今年度4月からは新たに指揮者として梅田俊明先生をお迎えしたのですが、そういった小さな編成による合わせの段階からきめ細かく見ていただくことができました。これは本場にラッキーなことでした。その後、様子を見ながら徐々に合奏に参加する人数を増やしていき、9月頃から全員での合奏を始めました。

梅田 新型コロナウイルスの影響で春からプロオーケストラの仕事が一切止まってしまったため、ほぼ毎週東邦に来て、分奏から細かく見ることができたことは大きかったですね。しかも、宮野先生をはじめそれぞれの楽器の先生に直接ご指導いただきながら私が指揮をするという日々が続き、それが演奏会では奏功したと言えます。細かくやった分だけ身に付いて、十分にこなれたレパートリーを披露するという次元にまで行けました。コロナ禍の特別な年でしたが、学生にとってはよかったですと言えるかもしれません。

宮野 通常であれば、授業はフルオーケストラで曲を通すところから始めていました。以前から「分奏も必要だよな」という意見もあり、授業の進捗によって定期的に行っていました。今回の



## 理事長からのごあいさつ

Greetings from the President



学校法人 三室戸学園 理事長  
東邦音楽大学大学院 東邦音楽大学 東邦音楽短期大学  
学長

### 三室戸 東光

Harumitsu Mimurodo

卒業生の皆さん今日は、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

令和2年度を振り返りまして、大学・大学院・短期大学は新型コロナウイルス感染症で入学式を中止という経験したことがない状況でした。オンラインによる授業が5月18日よりスタートし、6月1日から対面授業が始まりました。10月より定期研究発表演奏会ソロの部から感染防止策を施し、各演奏会も行われて現在に至っています。その活動状況がこのエコーの記事から読みとることができるでしょう。

オーケストラも梅田俊明先生指揮によるオーケストラ授業の練習を7月より分奏からスタートし、秋のオーケストラの本番に向っての新しい指導が功を奏す結果になり学生さんも自信を持ったと思います。新しいオーケストラの風も吹いています。

一方、令和2年度より中高、二高と大学、短大との高大接続に伴う連携のもと、絆を強くする取り組みを始めています。このことは当然のことながら中高、二高の生徒さん方は在学中に基礎力が付きますので、卒業年次までには卒業代表者になる、選ばれる確率が高いことでもわかります。更に令和3年4月よりピアノの秦はるひ特任教授を招いて、育てたい未来の楽器のもと中高からの入学者とKonzertfach演奏専攻の特別レッスンを継続して担当することにもなっています。先生は東京芸術大学、同大学院を修了後、36年間芸大で後進の指導にもあたり、国際コンクールの審査にも招かれています。東邦では一人ひとりの個性を尊重し、きめ細やかな教育の実現を目指しております。卒業生の皆様のご支援、ご声援をお願い申し上げます。

ようにまず徹底して「分奏から」というのは初めての経験でした。しかしそのメリットは大きかったですね。

弦楽器は1年生から4年生まで全員がオーケストラに乗っていますので、新入生の中には弾けなくて固まってしまう人もいます。個人差がありますが本番近くになっても思うように弾けない学生も出てきてしまいます。そういう人はオーケストラを乗しむことができず、達成感を味わえません。ところが今回は最初の段階から細かく指導ができたので、ほぼ全員が演奏会で思い切り演奏することができました。それで、本番が終わった後の感動も、満足感も大きかったです。

梅田 コロナがなくても、オーケストラの練習はやはりパートごとの分奏から始めなければならぬという考えは最初からありました。コロナによって不可抗力的にそうなったわけですが、ヴァイオリンだけのときでもホルンのホイエなどを使い、間隔を広く取って座る。すると隣の音が聴こえづらから、自分がしつかり弾かないといけないう意識につながります。今、良い面ばかり話していただきますけれど、我々にとってはあまり悪い面がなかった(笑)。僕が理想としていたことと合致していたんです。

今の学生に必要な合奏教育はどんなものだとお考えですか。

梅田 大学というのは学びの場としては最終段階ですが、近年は音大にきているのに基礎力が弱い学生が多い。ただ自分の楽器を操れるから入ってきてしまっている。基礎力というのは、例えばソルフェージュや、音楽の構成力といわれるものです。もちろん個人差もあるし、これまでどのように勉強してきたかによっても大きな差がありますが、学生一人ひとりについてそのすべてを把握することはほぼ不可能です。

浅野 ただ、そういう学生たちの差を理解して、きめ細かく見てあげるといことも必要ではないかと感じています。

宮野 個人差はもちろん弦楽器の中にもありますが、例えばヴァイオリンを学ぶ学生はその過程で必ずバツハや、モーツァルトなどの古典を練習しますので、梅田先生のおっしゃる「基礎力」は最低限持っているはず。そしてオーケストラのパートに関し

ても、個人レッスンのときに細かく見ることができません。私の母校では細かいオーケストラ指導がありません。実際にオーケストラに入団してから、それは苦労しました。オーケストラに入った後に、一から勉強し直して、弾き方も全部変えたという経験があります。

では学生時代にあらゆるオーケストラ曲を経験をする必要があるかと言うとそうではなくて、要するに応用力なんです。この大学の建学の精神は「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目的とする」ですが、音楽の基礎を勉強した



上で情操豊かな人間であれば、かなりの柔軟性があり、応用力もあり、判断力もあって、どんな曲でも対応できる。オーケストラはいわば小さな社会ですから、そこでやっているとだけの人間関係のありかたなども勉強しつつ、豊かな音楽表現を学べたらいいなと思っています。

今年度から導入した新しい試みについて教えてください。

梅田 まず、オーケストラの練習が終わった後に学生同士で話し合う時間を設けました。その日の授業の反省とともに、来週に向けて何を求められているのかを考えてほしかったし、教育というものは一方通行になりやすいので、教員に対して「こういう時間を作ってほしい」「こういうことを重点的に教えてほしい」などという要望も聞きたかった。先生が敷いた道を行くだけでなく、彼ら自身で進むべき道を見つけていなければならぬわけですから、その自覚を強く促すというのが目的です。結果として、学生たちも大きな理想に



向かって一緒に歩んでいくという意識が高まったように感じます。

ただし「こういうことをしてほしい」と言えるためには、前提としてやるべきことを自分がやっているから、という側面もあるわけです。権利を主張するには義務を果たさなければならぬ。それも理解してほしいと考えました。

**宮野** 今の学生って、精神的に繊細な面がありますが、だからと言って優しく指導してあげるだけではなく、厳しい世界があるということもわからないといけないと思うんです。オーケストラでもそういう厳しさは必要です。

**梅田** オーケストラでの「厳しい」とは、理想を高く持つということです。学生にとってはその期待に応えられないことが、きついかもしれません。

**浅野** もうひとつ、今回梅田先生は榊真由、田邊皓という2人の若い指揮者を連れて来てくださり、授業だけでなく演奏会でもそれぞれ指揮をしていただきました。

**梅田** 僕が毎週来られるとは思っていなかったのですね(笑)。しかしコロナのせいで来られることになつたので、3人の指揮者がそれぞれ別のパートを振るということをしていました。学生にとつては、本物の指揮者がいつも前にいる状態で分奏をするということがスタンダードになつてしまったので、今後が大変ですよ(笑)。

**浅野** 今年はそれに加えて、各管打楽器の先生が毎回オーケストラの授業に出てくれて、実際に演奏して指導する機会も多く作りました。プロの演奏をすぐそばで体験できるということが、学生にとつては相当大きな学びになりましたね。

**梅田** また、今回はベーターヴェンのみ、管打楽器をオーディション制にしました。この大学では初めてのことです。従来は学年順に乗り番が決まっていたようですが、それをやめて1年生でも乗れる機会を作りました。「4年生になつても乗れないかもしれない」という危機感、刺激につながります。学年が上がれば乗れるという安心感、逆に言うと下の学年では乗れないという諦めは、成長を止めますから。

**梅田先生は、どんな意識で学生を指導してきたのでしょうか。プロオーケストラを振る場合との違いは？**

**梅田** プロのオーケストラでも音大生のオーケストラでも、要求することは同じです。作曲家の作品を演奏するという意味合いにおいてまったく変わりはない。だって、「東邦音楽大学用のペーローヴェン」とかないですから(笑)物差しを変えなければいけません。常に僕の理想とする物差しで測るわけです。そこに足りないときに、「できるようにしてほしい」ということを願っているだけ。なぜできないのか、ということを考えて、それを各楽器の先生に習ってほしい。

**宮野** 梅田先生がいらしてから、オーケストラに対する学生たちの意識が変わつたように思います。弦楽器はオーケストラの中では1つのパートを大勢で弾くので、「ちよつと自分が弾けなくても」みたいな意識もどこかにあるものですが、かなり一人ひとりに責任感が出てきました。

加えてヴァイオリンだけで分奏していると、1人のミスが全員に聴こえてしまいます。それで「自分の音もこんなに反映されているんだ」という自覚が出てきて、オーケストラのパートをしつかりと練習するようになりました。

**梅田** 普段の合奏では周りでいろいろな音が鳴っているので、自分の音が聴こえないことはよくあります。そうすると、「弾けている気」になつて済ませてしまうケースも出てきます。ところがコロナ禍で互いにディスタンスを取つた場合、自分に嘘をつけなくなつて、「自分が弾けていない」ということに気づけたわけです。何をやるのでも同じですが、まずは「自覚」が必要ですよ。

重要なのは、1人ひとりがその曲を消化して、自分の表現として音を出すということ。そこに上手い下手はありません。楽器が下手であつても、自分がオーケストラの中でどんな役割を果たすか、あるいは曲全体の中でどんな場面であるのか、精一杯表現することです。もちろん、指揮者のイメージをある程度は伝えますけれど、それぞれイメージは違つていていい。それがオーケストラの人数分あるから音楽が面白くなるし、幅が出てくるんです。それが、聴く人の想像力をふくらませることもつながります。

**宮野** そういふ、学生たちの個性をととても大事に

**教員略歴(敬称略)**

●浅野 高瑛(あさのこうえい)  
特任教授・演奏部長(オーケストラ・ウインドオーケストラ)・ファゴット桐朋学園高等学校音楽科、ボストン・ニューイングランド音楽院修了。帰国後、オーケストラソソロリサイタル、協奏曲を数多くこなす。テレビやラジオでも活躍。レコードやCDを多数発売。演奏活動の傍ら子どもの感性教育にも力を注ぐ。大阪芸大、相愛、日大及び附属鶴ヶ丘高校講師。07年まで桐朋学園大学教授、同年より洗足学園音楽大学、田村学園幼稚園部3園教育顧問。17年洗足学園名譽教授、東邦音楽大学特任教授、18年より演奏部長。また全国の小・中・高校のオーケストラ、吹奏楽で後進の指導にあたる。19年8月、復刻版CD4枚組「浅野高瑛レコーディングス-セクシー・パズル-」をピクチャー社より発売。演奏団体「浅野高瑛とハートフル・フレンズ」を主宰。

●梅田 俊明(うめだとしあき)  
特任教授・オーケストラ(指揮)  
84年桐朋学園大学音楽学部卒業。86年同研究科修了。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。83、84年にはジャン・フルネ氏にも学ぶ。86年よりウィーン国立音楽大学指揮科に留学、オトマール・スイトナー氏に師事し研鑽を積んだ。日本センチュリー、仙台フィル、神奈川フィルの指揮者を歴任。2000～06年まで仙台フィル常任指揮者に就任しオーケストラの発展に情熱を注いだ。N響、読響、都響、東響、新日フィルを始め国内主要オーケストラと長年にわたり共演を重ねている。的確な棒さばきと音楽に対する誠実な姿勢でオーケストラからの信頼も厚い。また桐朋学園大学、東京藝術大学非常勤講師として後進の指導にもあたっている。

●宮野 陽子(みやのようこ)  
教授・管弦打楽器専攻主任・ヴァイオリン  
東京芸術大学音楽学部卒業。在学中、安宅賞を受賞。芸大オーケストラとシベリウスのヴァイオリン協奏曲を演奏した。また、中国(北京・上海)へ演奏旅行。国内数ヶ所でもコンサートを行う。88年、ロツテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の第1ヴァイオリン奏者として渡欧。オランダ在住中、オランダ・アルクマール音楽祭に参加。室内オーケストラ、室内楽などの活動も行う。96年帰国。後進の指導のかたわら、ソロ・室内楽を中心に演奏活動を行っている。天満敦子、原田幸一郎、ウラディーミール・デュフエック、ジグムント・ニッセルらに師事。

されるところがとてもありがたいです。オーケストラというところでも、「みんなと一緒にそろって弾かなければならない」と思われがちですが、梅田先生はそうはおつしやらない。1人ひとりの主張があつてもその上で同じ方向を向くと、音がそろうわけです。個性豊かでありつつ、周りと協調性が取れるような人間を育てるという意味でも、オーケストラ教育の意味があるのだと思います。

**浅野** 昨今、学生の自ら発信する力は落ちていると危機感をつのらせてきました。でも東邦は少人数ですから、何かができるのではないかと以前から感じていたのです。そこで梅田先生に振つていただいたのですが、明らかに変化がありました。梅田先生は精神面を含めて音楽を深めていく指導をしてくださったので、それが学生たちの心の中に響き、ゆるぎないものになつた。本番では多少ミスしようが何しようが、心の根底に流れているものがお客さんに訴えかけたわけですから、だから聴いた皆さんがすごく喜んでくださいました。あるお客様は帰り際に「すごく深く勉強されていますね」とスタッフにおつしやつたそうです。それを聞いて「これだけ時間をかけてやつたことは結果として表れるものだ」と思いました。ひとえに梅田先生のおかげです。

(文・今泉晃二)

# 定期研究発表演奏会 レポート

## 定期研究発表演奏会 オーケストラの部

2020年 11月23日(月・祝) 文京シビックホール 大ホール

梅田俊明先生、榊真由先生、田邊皓先生を指揮者に迎えてのオーケストラ演奏会。弦楽器はマスクを着用し、管楽器の譜面台にはアクリルのスクリーンを設置するなど感染対策を行なつ

での開催となったが、「合奏するのって楽しい」「お客さんに音楽を伝えられることが嬉しい」そんな気持ちが伝わってくるような演奏であった



東邦音楽大学4年  
コンサートミストレス

ヴァイオリン  
豊島 夢美



今年は演奏する機会が非常に少なかったため、今日は本当に貴重な時間でした。梅田先生は厳しかったですが、音楽そのものを教えていただける感じで、すごく勉強になりました。コンサートミストレスとしては周りを「感じる」ことを意識しました。おかげで個人的にも成長できたように思います。

東邦音楽大学3年  
インスペクター

ヴァイオリン  
佐藤 直樹



感染対策のためしばらく弦楽器と管楽器に分かれて分奏していたので、はじめのうちはなかなか合奏の感覚が戻らず、梅田先生から何度も叱咤激励されました。でも、弦分奏のときから梅田先生が付きっきりで見てくださったので、細かなニュアンスを表現することができるようになったと思います。

東邦高等学校  
2年

ヴァイオリン  
長坂 菜子



久しぶりのオーケストラの演奏で、とても楽しかったです。先生がたにはオーケストラの練習時間を別にいただいたり、生徒たちだけで集まって練習をしたりして、少しでも曲の精度を上げられるようにしてきました。2ndトップとしては、合図を出すなどしてパートの音が合うようにがんばりました。

## 定期研究発表演奏会 ソロの部

2020年 10月10日(土) 東邦音楽大学グランツァール



## 定期研究発表演奏会 ウインドオーケストラの部

2020年 12月12日(土) 和光市民文化センター サンアゼリア大ホール

ヘンデルの《水上の音楽》やヒンデミット《吹奏楽のための演奏会用音楽》など緊密なアンサンブルを聴かせる小編成曲と、ミッチェル

《海の歌》、チェザリーニ《アルプスの詩》という自然の雄大さを描いた大編成曲の対比も鮮やかな演奏会となった。



東邦音楽大学・短期大学ウインドオーケストラ



東邦中学校・東邦高等学校ウインドオーケストラ



東邦第二高等学校ウインドオーケストラ

教員として心がけていること

「教える」とか「教わる」以前の段階として、人間対人間として、「私はあなたたち一人ひとりに興味を持って見ているよ」ということを伝えることが最初だと思っています。音楽療法を志して大学に入ってくる学生は、「音楽で人の役に立ちたい」と思っている人が多いですが、まだまだ人間として未成熟な部分もあるので、1人の人間として注目してあげること、その先すこく伸びていくと感じています。だから、学生それぞれのいいところを積極的に見つけるようにしていますね。

音楽療法は、音楽と（医療・教育・福祉）という三本柱が連携して行なうので、本当に広い領域を扱うものです。学生のうちから広くものごとを見られるバランスのいい子もいますが、自分の興味があるひとつのことを突き詰めたという人もいます。でも私はそれでもいいと思っていて、自分の得意なことを生かしつつ、それにプラスして「こんなことをしていたらあなたの強みになる」ということは授業や実習で伝えていきます。ただ、「この先生は自分のことを認めてくれてる」と思わないと言葉が響かないので、まずは褒めることが大事です。音楽療法と教育には共通している部分もあって、音楽療法で「病気のあるあなたでいいよ」と伝えるのと同じように、学生が授業で学んだことをすぐに生かせなくてもいい。がんばろうとしている姿勢を見せてくれればいい、と思っています。

音楽以外の趣味

趣味ってあんまりないんですよ。気づくと仕事のことを考えているんです(笑)。でも山登りとか温泉とかは好きです。論文などに行き詰まると、すぐに高尾山とか登りに行ってしまふ。しかも1日に何度も違うルートで上ったり下ったり、そのまま陣馬山まで歩いて行ってしまったり。歩いていると頭の中が無くなって、考えがまとまったりするんです。温泉にぼーっと浸かっている、アイデアが浮かぶとそのまま出て来て書き留めたこともあります。結局、仕事のためにやっているんですよ(笑)。

第6回

教員のよがお

本学園の教員おひとりにスポットを当て、その人となりに迫るコーナーです。

第6回目は、音楽療法専攻チームリーダーを務める木下容子先生にご登場いただきました。

音楽の道を志したきっかけ

小さい頃からピアノを習っていて、音楽が大好きになり、小学生のときから音楽で仕事をしたいと思っていました。中学時代は音大附属の音楽教室に通いながら、吹奏楽部で金管楽器を吹いていました。高校はピアノで音楽科に入り、2年生のときに音楽療法というものに出会ったんです。きっかけは大学の公開講座で見た海外の音楽療法のビデオで、目が見えなくて知的障害も持つ方に対し、セラピストが実際に音楽療法を行なうというものでした。最初は泣き叫んでいた子が、音楽によってどんどん変化していく様子を目の当たりにして、体中にいなくても走るような感覚がありました。「私の仕事はこれだ!」と。小さい頃から「人の役に立ちたい」という

気持ちはずっと持っていて、「私の場合、音楽を媒体とするのがいいのかもしれない」と感じていたからです。

当時は日本の大学に音楽療法専攻というものがないのですが、音楽療法士の資格が取れる音大の夜間コースはありました。そこで昼間は音楽教育専攻で1限から5限まで授業を受け、夜は6限、7限で音楽療法士を取るための授業を受けていました。卒業後はいろいろなところで非常勤として音楽療法を行なっていたのですが、やっていくうちに知識も技術も圧倒的に足りないことに気づき、働きながら大学院に通って、特別支援教育を専攻しました。

木下 容子先生

洗足学園音楽大学音楽教育専攻卒。  
同大学附属音楽療法士資格取得準備講座修了。  
東京学芸大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻修了。  
応用行動分析に基づいた音楽療法を、児童・高齢者・精神科などの領域で実践。日本音楽療法学会認定音楽療法士。東邦音楽大学准教授。  
音楽療法専攻チームリーダー。

思い出の一品

2019年にウィーン研修の引率に行っている間にちょうど誕生日を迎えたのですが、学生がウィーンの雑貨屋さんで買ったカードに、みんなでメッセージを書いてくれました。私が猫が好きを知っていて、猫の描かれたカードを探し回りました。ケーキも用意して皆でお祝いしてくれて、忘れられない誕生日になりました。



## Toho College of Music Graduate Interview

## 音楽に関わる仕事で活躍する卒業生たち

東邦で学んだことをベースにして、やりたいことを自ら実現。



習志野高等学校 1994年大学(管弦打楽器専攻)卒業

音楽教諭 織戸 弘和さん

## Profile

習志野市出身。習志野市立東習志野小学校6年時に石津谷治法氏から音楽の楽しさを学び、習志野市立習志野高等学校在学時に新妻寛氏から音楽の奥深さを学んだ。東邦音楽短期大学から東邦音楽大学へ編入し、トランペットを加古勉氏に師事。習志野市立第一中学校赴任以降、第五中学校、第六中学校で管弦楽部及び吹奏楽部を指導し、各種コンクールやコンテストで幾度の全国一位授賞や全国大会出場を果たす。平成30年度、現任教へ異動。充実した日々を過ごしている。

## 真剣な眼差しで練習する姿にこちらが感動した

現在のお仕事について教えてください。

習志野市立習志野高等学校の音楽教諭をしています。

また、学年の副主任と芸術科主任も拝命しました。

習志野高校と言えば吹奏楽部が有名ですね。

顧問はされているのですか。

はい。実は本校は私の母校であり、吹奏楽部にも在籍しております。ただ、自分の出身校だという理由で、部の活動が停滞しないようにしたいと思っています。毎日の練習は充実していますので、やりがいを感じていますね。これまで他の学校でも吹奏楽部顧問を務められてきたのですか。

東邦音楽大学卒業後、習志野市立向山小学校で音楽専科の産休補助教員として、2年間勤務しました。

その後、同市第一中学校で音楽教員として採用され、次に勤務した第六中学校まで管弦楽部顧問として指導に当たり、大好きなブラームスやブルックナー、マーラーなど大作曲家の交響曲を演奏することが出来ました。その次の第五中学校で初めて吹奏楽部顧問となり、その後、第一中学校で再び管弦楽部の指導を経て習志野高校へ



異動しました。吹奏楽の経験は浅いですが、管弦楽部指導の経験が音楽づくりや生徒指導においても大きな財産となっています。

どんなきっかけで音楽を始め、東邦を目指そうと思ったのですか。

小6の4月に、担任の先生から「トランペット隊」に入るように言われて始めました。顧問は、恩師であり現在

同僚でもある石津谷治法先生でしたが、当時は練習が厳しく早く辞めたい一心でした。でも、野球少年だった私はプロ野球選手の応援曲を演奏してから音楽の楽しさを感じるようになっていきました。中学校では、市内の少年少女オーケストラに入っていた先輩から、「軽騎兵序曲」や「幻想交響曲」などの有名なトランペットの旋律を教わり、高校では、当時吹奏楽部顧問であった新妻寛先生からブラームス、ラヴェル等の音楽や様々な演奏を通して、表現の豊かさを教えていただきました。その後、音大の進学を漠然と考えていた時に、高校の先輩や中学校の後輩が進学していた東邦音大の存在を知り受験を決めました。

では、教員を志したのは？

高校卒業後、母校の習志野市立第四中学校で、東習志野小学校から異動されて吹奏楽部顧問であった石津谷先生から、吹奏楽部のコーチとして誘われた事がきっかけです。拙い指導であつたと思いますが、真剣な眼差しで練習する後輩たちの姿を見て、こちらが感動したことをよく覚えています。そのような経験をさせてくれた後輩たちには、感謝しかありません。

東邦音楽大学で学んだことで、今のお仕事に生きていることはありますか？

教えていただいたこと全てが、役立っています。特に教職課程の講義で、「教材研究したことをどのように教えるか、どのように提示すれば生徒・児童の意欲を引き出すことができるか」ということ、現代音楽の講義で「こだわりを持つて深く追求・研究することの大切さ」を教えていただいたことが、強く印象に残っています。どちらも「教える」ということへの向き合い方を考えさせてくれた出来事でした。

最後に、現在の課題と今後の展望を教えてください。

現在の課題は、コロナ禍での教科や部活動の運営方法です。苦境のときほど成長する絶好の機会と捉え、前向きに考えていきたいと思っています。今後の展望として確固たるものはありませんが、素直な心で謙虚に周囲の意見を聞きながら、生徒とともに前へ進んでいきたいと思っています。

# 演奏会・イベントレポート

Pick Up

## 東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート

2020年10月2日(金) 場所:北区 北とびあ つつじホール



東邦中学校・東邦高等学校の生徒と教員による「東京さくらトラム(都電荒川線)沿線の文化と景観を後世に残す」と題したコンサートが開催されました。

今年度はサブタイトルに「医療従事者・エッセンシャルワーカーの方々への感謝を込めて愛と祈り～音楽の力で～」と表し、無観客の中、TV収録の元でのコンサートとなりました。

本公演は、世界遺産トーチランコンサートの一環として、NPOユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会のご支援とご協力をいただき、東京さくらトラムの沿線等の四季折々の写真や映像により、景観と文化、そして人々の営みをクラシック音楽を通して地域の方々にもお伝えするコンサートです。

ユネスコ平和芸術家・城之内ミサ先生の企画立案により、東京都交通局様、北区教育委員会様、公益財団法人北区文化財団様からのご後援をいただいで実施されました。また、J:COM様のご協力により再放送含む数回のオンエアが行われました。



Pick Up

## 東邦音楽大学/ハンガリー 友好コンサート(大学4年次生演奏演習)

2020年10月11日(日) 事前収録 場所:東邦音楽大学グランツァール  
2020年10月19日(月) ハンガリー大使館フィルムコンサート

2011年から続くハンガリー・ブダペストを訪れてのコンサートがコロナ禍において実施が叶わず、2020年度は駐日ハンガリー大使館に訪問させていただき、事前収録をした演奏をフィルムコンサートとして上映させていただきました。

大変お忙しい中、パラノビチ・ノルバートハンガリー国特命全権大使にも臨席賜りメッセージをいただきました。また、ハンガリーに

赴くことができなかった学生のためにハンガリーの歴史、文化などについてもご紹介があり、最後に、本学ピアノ講師でもあり、ハンガリーに所縁のある藤原新治先生にハンガリー狂詩曲を披露いただき閉会となりました。これまで9年間続いているハンガリー現地の方々との交流も考え、現地でもフィルムコンサートの上映を行い、お褒めの言葉を多数いただきました。



## 主な演奏会&イベントの様子をご紹介します。

Pick Up

### Konzertfach(演奏専攻) 学生による演奏会“奏”

2020年11月7日(土) 場所: 東邦音楽大学グランツザール



Pick Up

### 短大2年次生演奏演習

2020年10月28日(水) 事前収録  
場所: 東邦音楽大学グランツザール

短期大学では、毎年必修科目「演奏演習」を通じて、沖縄県の小中学校で音楽鑑賞教室を開催してきました。演奏会の企画・構成を学生たち自らが行き、一人ひとりの専攻や個性が活かされた音楽劇が創り上げられ現地の子どもたちを楽しませています。今年度はコロナ禍において沖縄県での上演が叶わず、直接お届けすることができませんでしたが東邦音楽大学グランツザールにて収録した映像を現地のみなさんに鑑賞していただきました。



Pick Up

### 大学院1年生演奏会

2020年12月19日(土)、20日(日)  
場所: 東邦音楽大学グランツザール



Pick Up

### TOHOサタデーコンサート

2020年11月7日(土) 場所: 創立50周年記念館ホール

文京キャンパスで開催している短期大学主催のコンサートです。出演者は学生をはじめ教員、研究員等で構成され、年間6公演ほど行っています。地域の皆様にも身近に演奏をお楽しみ頂けるコンサートとして今後も開催していきます。



Pick Up

### 大学院修士課程 学位審査修了演奏会

2021年2月13日(土)、14日(日)  
場所: 東邦音楽大学グランツザール



出演者および来場者の検温・消毒実施、座席の限定的な使用、常時換気の実施など、様々な感染症拡大防止対策を行いながら開催いたしました。

## 卒業生情報センターごあいさつ

東邦音楽大学・大学院・東邦音楽短期大学 卒業生情報センター **市山 恵一**

思いも寄らぬ出来事が頻繁に起きる時世の中、爽やかな陽光に心が癒される季節となりました。卒業生の皆様に於かれましては、益々清栄のことと存じます。令和2年4月から、瀧先生の後任として「卒業生情報センター」に勤務させて頂いております市山と申します。卒業生の皆様と母校との懸け橋の窓口として力を注いで参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。さて、想像もしえなかつた未曾有のコロナ禍の中で、皆様如何お過ごしでしょうか？卒業生の方々からの情報によりますと、リモートでの音楽教室個人レッスンや密にならない発表会、YouTubeでの演奏発信など、新システムに果敢に取り組み、音楽の普及に寄与されているとの事です。この様な情報

は、音大にとって大変貴重であり、また皆様のご活躍は同窓生として大きな誇りでもあります。更には、東邦同窓会「邦友会」の躍進も素晴らしいものがあります。邦友会事務局が、この卒業生情報センターの部屋に設置されている関係上、邦友会会長はじめ役員の皆様のボランティアでの献身的なお仕事を間近に拝見させて頂き、深く感謝いたしている次第です。この様に、同じ学び舎で青春を過ごした方々が、移り行く歴史の中で情報を共有し、更には母校との連携を深める事で、卒業生の皆様そして東邦の更なる発展に繋がれば、と願っております。卒業生の皆様、ご健勝でお過ごし下さいますと共に、今後ともなんなりとご連絡頂きますよう、切にお願い申し上げます。



### 《卒業生推薦型選抜(大・短)、卒業生推薦入学試験(中・高・二高)制度》のお願い

この制度は、東邦音楽大学・同大学院・東邦音楽短期大学を卒業または修了された方が、同大学、短期大学、附属高等学校、第二高等学校、中学校への受験生のご推薦を頂くものです。この制度をご利用頂きますと、受験生の入学検定料が免除となります。一人でも多くの生徒さんが、本格的な学び舎へ進学されます様、何卒ご協力をお願い申し上げます。

尚、推薦者である卒業生の方は、「卒業生情報センター」への事前登録が必要となります。また、既にご登録済みの方も、以後のご推薦時には必ず同センターへその旨のご連絡をお願い致します。詳細につきましては、下記へご連絡下さい。また、その他のお問い合わせや様々な情報なども、是非お気軽にご連絡下さい。お待ち申し上げます。

**【卒業生情報センター】 TEL 03-3946-9674** 受付：月曜・水曜・金曜／10:00～16:00  
E-mail : [ichiyama.keiichi@m.toho-music.ac.jp](mailto:ichiyama.keiichi@m.toho-music.ac.jp)

## イベントスケジュール2021

### ■ Musicオープンキャンパス

・大学(川越キャンパス) 6/27(日)・8/1(日)・8/29(日)  
・短大(文京キャンパス) 6/20(日)・7/25(日)・8/22(日)

### ■ Music miniオープンキャンパス

・大学(川越キャンパス) 3/27(日)  
・短大(文京キャンパス) 3/26(日)

### ■ 高校生のための音楽療法入門講座(川越キャンパス)

・5/8(土)・9/11(土)・10/23(土)・11/27(土)・12/18(土)・1/29(土)・2/12(土)

### ■ パフォーマンス総合芸術文化専攻プロモーション(文京キャンパス)

・6/13(日)・7/22(木・祝)・9/12(日)・3/20(日)

### ■ 入学者選抜対策講座(文京キャンパス)

・5/29(土)・6/12(土)・7/17(土)・9/18(土)・10/2(土)・11/6(土)

中止・延期・内容変更となる場合がございますので、ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

## 邦友会ごあいさつ

東邦音楽大学・短期大学同窓会「邦友会」 会長 **林 恵子**

2020年9月より、同窓会「邦友会」の会長になりました林恵子でございます。邦友会では、会長と共に2人の副会長も変わりました。コロナの状況の中ですが、新しい体制を作り、リモートで定期的に会議を行っております。行事もリモートで出来たらとアイデアを持ち寄っているところがございます。理事長・学長であられる三室戸東光先生が邦友会の名誉会長でございますので、学校とも協力しながら進めてまいりたいと考えており

ます。若い卒業生にとりましても、邦友会がどのような形が望ましいものであるかも考えていきたいと思っております。邦友会の規約に、『より多くの卒業生の皆様と親睦を深めると共に母校との連絡を密にして母校東邦の発展に寄与し、併せて社会に貢献することを目的とする。』とありますように、同窓会としての歩みを進めてまいりたいと存じます。皆様どうぞよろしくお願いたします。



## 東邦ピアノセミナー

このセミナーでは、本学のオリジナルテキスト「表現を高めるための毎日のピアノエクササイズ」の作成を機に、表現とテクニックに焦点を当てて講座を展開してきました。今回はそれをさらに具体的に、また2020年に生誕250年を迎えたベートーヴェンのピアノを学ぶ者が避けて通れない「ピアノソナタ」を題材に、進めてまいります。講座・レッスンともに多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

講座1「心に響く演奏表現をめざして」

～表現を高めるためのテクニック・その3～ 講師：中島裕紀先生

講座2「ベートーヴェンを弾く」

～初期の作品から見えてくるもの～ 講師：小林律子先生

第14回東邦ピアノセミナーは2021年7月18日(日)開催 文京キャンパス



中島裕紀先生



小林律子先生

## 親子のためのピアノ・オープンキャンパス 2021夏

毎回たくさんの方々にお越しいただいている「親子のためのピアノ・オープンキャンパス」が8月に開催されます。いつも大好評の、大学の先生による「ピアノ体験レッスン」、普段見ることのない「ピアノの内部を見てみよう」、本学が誇る音楽ホール「グランツァール」のステージでピアニスト気分が味わえる「グランツァールでコンサート体験」などに加え、今年も新しい企画を準備中です。詳しい内容については学園ウェブサイト等を通じて随時お知らせいたします。ピアノの先生と生徒の皆さん、ご家族そしてお友達も一緒に夏の川越キャンパスにお越しください。

2021年8月22日(日)開催

東邦音楽大学 川越キャンパス 参加無料



ピアノの内部を見てみよう



グランツァールでコンサート体験

### ご支援のお願い

本学園では、将来を担う学生生徒に対して、より快適な学びの場を提供し、より多くの優れた人材を社会に送り出すための支援策として「21世紀学園整備資金募金」を恒常的に募っております。趣旨をご理解・ご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ先：

学校法人三室戸学園21世紀学園整備資金募集事務局

TEL 03-3946-9666

### お知らせ

本誌「Echole」は段階的に本学Webサイトページへの掲載に移行してまいります。但し、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学同窓会[邦友会]会員の皆様におかれましては、引き続きお知らせいただいているご住所へお送りいたします。

次号[Echole Vol.62]は、2022年春ごろ発行予定です。

●掲載されている教職員の役職は2020年度のものです。

### SNSで情報を発信しています



大学、短期大学および各附属校のTwitter、Facebook、LINEを開設し、ニュースやオープンキャンパス等のイベント情報、在学生・卒業生の情報を発信しています。ぜひフォローをお願いいたします。また本学園公式YouTubeにて演奏会や学校紹介動画なども随時公開していきます。

### 瑞宝双光章受賞

福岡省三先生(元理事、元東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校校長歴任)令和2年12月1日付けで「瑞宝双光章」を受賞されました。

### 訃報

学校法人三室戸学園 元理事  
山本 卓弘様(87歳)  
2020年4月12日(日)ご逝去

元特任教授  
日比 啓子先生(享年71歳)  
2020年6月12日(金)ご逝去

教授  
川端 敏朗先生(享年63歳)  
2020年12月26日(土)ご逝去

元特任教授  
久邇 之宜先生(71歳)  
2021年2月15日(月)ご逝去

心からご冥福をお祈りするとともに謹んでお悔やみ申し上げます。

## 演奏会・イベントのご案内

開場・開演時間など詳細は本学ウェブサイトです。

6/5(土)	第10回 北関東甲信越音楽系高等学校演奏会	東邦音楽大学 グランツザール
7/11(日)	第217回 定期研究発表演奏会(ソロの部)	東邦音楽大学 グランツザール
9/11(土)	2音大クラシック・コンサート	ウエスタ川越 大ホール
10/9(土) 10(日)	東邦ミュージック・フェスティバル2021	東邦音楽大学 川越キャンパス
10/29(金)	東邦中学校・東邦高等学校 クラシックコンサート ～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～	北とびあ つつじホール
11/6(土)	Konzertfach(演奏専攻)学生による演奏会	東邦音楽大学 グランツザール
11/12(金)	第218回 定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)	ウエスタ川越 大ホール
11/23(火・祝)	第12回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2021	ミューザ川崎シンフォニーホール
11/27(土)	第219回 定期研究発表演奏会(合唱の部)	東邦音楽大学 グランツザール
12/4(土)	第220回 定期研究発表演奏会(オーケストラの部)	和光市民文化センター サンアゼリア 大ホール

●お問い合わせ先：東邦音楽大学 地域連携・演奏センター TEL.049-235-2157

## ご住所等の変更がございましたらお知らせください

本誌は、卒業生の皆様に卒業時にお届けいただいているご住所へお送りしておりますため、ご住所、お名前等、変更がございます場合は、当編集部へお知らせいただけますと幸いです。登録情報の変更は、学園ウェブサイトにてお手続きいただけます。郵便や電話にでも受け付けております。なお、ご本人様からの変更手続きのみ承ります。ご了承ください。

※ご連絡いただいた個人情報は厳重に管理し、本誌送付、そのほか学園からの案内等に使用させていただきます。

※近年「職業別名簿」の刊行という名目による個人情報収集の被害が本学園卒業生をはじめ全国で横行しておりますが、本学園では名簿作成や個人情報収集等を第三者(業者)に委託することは一切ございませんので、くれぐれもご注意ください。また、このような被害に関して、本学園および邦友会では責任を負いかねますことをご了承ください。

[エコーロール]編集部



学校法人 三室戸学園

<https://www.toho-music.ac.jp>

 スマホ対応! 東邦の  
ウェブサイトはこちら


[川越キャンパス] 〒350-0015 埼玉県川越市今泉84 TEL.049-235-2157

東邦音楽大学・東邦音楽大学附属東邦第二高等学校・東邦音楽大学ミュージックセンター／東邦音楽大学グランツザール

[文京キャンパス] 〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9 TEL.03-3946-9667

 東邦音楽大学・東邦音楽大学大学院・東邦音楽短期大学・東邦音楽大学附属東邦高等学校・東邦音楽大学附属東邦中学校  
東邦音楽大学総合芸術研究所・東邦音楽大学エクステンションセンター・東邦音楽学校／創立50周年記念館

[TOHOウィーンキャンパス] Wien, AUSTRIA 東邦ウィーンアカデミー